山梨学院大学

# 受け入れ体制の充実で優秀な外国人留学生を獲得へ

# 真のグローバル化への挑戦

山梨学院大学が、これからの地方私大のあり方を求めて躍動している。企業が求めるグローバル人材や世界トップクラスで活躍できるスポーツ選手の育成、そして優秀な外国人留学生を惹き付ける施設やサポート体制の整備。人口減少時代の日本に不可欠な「真のグローバル化」への道を歩む。

## 日本語教育の拡充、国際学生寮の整備で、留学生の受け入れ体制を充実

優秀な外国人留学生を獲得するために何が必要なのか――。昨年5月、山梨学院大学は、この課題に挑むため「留学生事業検討プロジェクトチーム」を立ち上げた。チームには、学部教員のほか、入試センター、国際交流センター、就職・キャリアセンターも加わり、入学から卒業・就職までをトータルにカバーする全学横断的な受け入れ体制の整備を進めている。

留学生事業リーダー
現代ビジネス学部准教授
**張 華**

プロジェクトリーダーを務める張華・現代ビジネス学部准教授は「少子高齢化に伴う大学入学者数減少を外国人留学生の受け入れで補うという考え方はしません。きちんとしたサポート体制を築くことで、真剣に日本で学ぶことを望む、優秀な留学生を惹き付けたい」と語る。

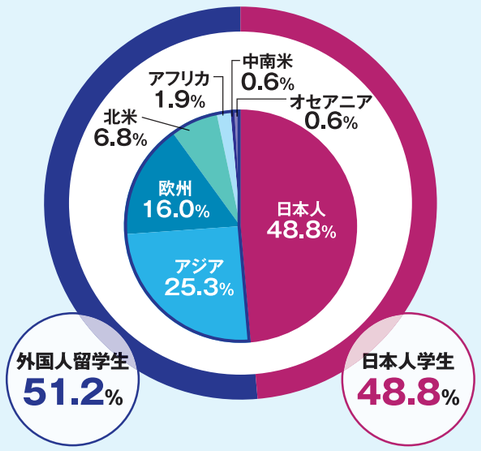
支援体制は、学習と生活の両面から整備。学習面では、外部から専門ノウハウを持つ教員を特任教授に招き、日本語教育を拡充する。張准教授は「日本を留学先に選ぶ外国人学生は、日本語を高度に使いこなしたいという意欲を持っています。日本語教育をこれまで以上に充実させることで、アクティブラーニング型授業にも対応でき、日本人学生・教員とのコミュニケーションがさらに活発となり、高度で実践的な日本語運用能力の育成に期待ができます」と、日本語教育による支援の意味を説明する。

生活面では、今夏に「国際学生寮」（第1期）を着工。約7億円を投じて、スポーツジムやスリー・オン・スリーのバスケットボールコートを備え、リビング、キッチン共有のユニット型居住空間を持つ地上6階建て施設を整備する。定員90人の構成は、日本人3割、外国人7割とし、日常生活を通じて、グローバルな感覚を身につけ、国際交流を促す。張准教授は「寮は、親が安心して子どもを日本に送り出せるためのカギです。留学生活を楽しく、意義深いものにするために欠かせない日本人学生の友人をつくる場としても重要です」と強調。2021年には隣接地に2棟目を完成させる計画だ。

一方で、日本人学生と留学生との交流を促進させ、国際交流への関心や意識を醸成するための交流プログラムの準備も進めている。現在、山梨学院大学全体には30を超える国・地域から留学生が集まるが、張准教授は「互いの文化、言葉に興味を持つところから国際交流は始まる」と、手を尽くして大学グローバル化の道を探る。

## 国際色豊かな先進の国際リベラルアーツ学部

こうした留学生事業検討プロジェクトに先駆けて、2015年度から優秀な留学生を集める取り組みに成功しているのが国際リベラルアーツ学部（iCLA）だ。ここでは、多様な学問、芸術、スポーツをバランス良く学ぶリベラルアーツ型カリキュラムを提供し、授業の約85%を英語で開講。山梨学院大学のグローバル化の先頭に立っている。




iCLAは、専任教員の約75%が外国籍。在籍学生の50%以上は海外からの外国人留学生が占めている。世界各地で積極的に学生の受け入れ活動を展開し、アジアに加え、欧州や北米からの留学生が多いことも特徴となっている。iCLAには現在、世界27カ国・地域から母国で優秀な成績を収めた学生が集まっており、国際色豊かな環境が築かれている。

同学部生には、入学初年度に1年間の国際寮への入寮と、在学中に1年間の単位取得を目的とする交換留学が卒業要件として課される。提携大学は欧米を中心に30カ国50大学あまりにのぼり、学生全員の留学先を確保。学費の相互免除を前提とした協定があるので、学費の追加負担をせずに、留学できる環境を整える。

## 世界で活躍するトップアスリートや初の外国人女流棋士も輩出

『スポーツの山梨学院』として、これまでに延べ53人のオリンピアンを輩出、カレッジスポーツ界に確固たる地位を築いていることも、山梨学院大学のグローバル化を支える。多くの有望な外国人選手が入学。在学中に、同大学の充実した施設・設備、優秀な指導者を得て、その高い素質を開花させ、卒業後には母国の五輪、国際大会の代表選手として活躍する例も多い。

台湾出身で柔道の連珍羚選手（法学部卒）は2016年の五輪柔道で5位入賞、17年グランドスラムのバクー国際大会で台湾代表初の金メダルに輝いた。カザフスタン出身でレスリングのオレッグ・ボルチン選手（経営情報学部卒）は17年クナエフ国際大会で3位に入り、2020年の東京オリンピックを目指して同大学を拠点に練習に励む。ニュージーランド出身でラグビーのラファエレ・ティモシー選手（現代ビジネス学部卒）は日本代表として活躍している。また、文化競技でも、ポーランド出身のカロリーナ・ステチェンスカさん（経営情報学部卒・大学院修了）が、初の外国人女流棋士として話題を集めた。

日本の漫画やインターネットの影響でプロ棋士を目指していたカロリーナ・ステチェンスカさん。見事、外国人女性として初めて棋士資格を取得。大学院を今春修了し、都内を拠点にプロ棋士として活動している

## 全学を挙げて本気のグローバル化に挑戦

グローバル化の取り組みの積み重ねは、英・タイムズ紙が発行する高等教育情報誌「ザ・タイムズ・ハイアー・エデュケーション」世界大学ランキング日本版で、2017年に国際性分野8位にランクインした。2030年までには、全学生数の3割を留学生にすることを目指しており、さらに、全学的に国際化を推し進めるべく、外国人教員や外国人職員の採用にも力を入れていく。

日本企業のダイバーシティ向上が喫緊の課題となっている今、優秀な留学生の受け入れを戦略的に推し進め、きちんとその素質が開花するように育てる山梨学院大学の本気のグローバル化は、日本の地方私大の新たな道として注目される。

**山梨学院大学**　055-224-1234　山梨県甲府市酒折2-4-5　http://www.ygu.ac.jp/